

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	01742000204		
法人名	別海厚生企業組合		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	北海道野付郡別海町別海鶴舞町6-45		
自己評価作成日	H23年1月22日～H23年2月20日	評価結果市町村受理日	平成23年4月10日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=01742000204&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=01742000204&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年3月20日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人としてのつながりを大切に  
 利用者さんと利用者さんのつながり  
 利用者さんと職員のつながり  
 利用者さんと地域のつながり  
 職員と職員のつながり  
 人としてのつながりを大切にしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の郊外の静かな住宅地に立地し、一階を2ユニットのグループホームが入り、二階は会議室や同系列の居宅事業所などの事務室となっており、広く機能的な建物となっている。2ユニットのほぼ全員が、日中は日当たりのいい片方の居間に過ごすことが多く、食事もそこで摂るため職員は全員のニーズやプランを把握しており、また利用者も豊かな人間関係を維持することができるため、暖かい雰囲気で生活をしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時より、法人全体の理念やグループホームの5つの指標を説明、納得してもらえようとしている。又日常のケアにおいても、理念に沿ったものになっている。ミーティングでも意識付けをしている。	五つの指標を張り出し、簡易で明確な指標に基づいて日常のケアにたずさわっている。	日中は二つのユニットのほぼ全員が同一の場所で過ごすことが多い変則的なケアをおこなっている。多人数で過ごすという利用者の関係の多様性や豊かさと、認知症という個別ケアとの、整合性について取り組むよう期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店の利用、町の行事の参加、町内会の入会、「すずらんまつり」の開催をするなどして、地域と交流をしている。	比較的新しい住宅地であるが、町内会に加入し、各種行事にも参加、また事業所のお祭り等のイベントに交流を得るなど、地域での活動に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族等、運営推進会議の場などで理解を深められるよう伝えることはあるが、地域に向けての活動取り組みは行っていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員である家族が中心に取り組みの状況などの報告があったりするなど意見交換ができています。	定期的に各代表の参加を得て開催しており、内容や結果についてはお便り等で家族や関係機関に報告している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	以前に比べ、実地指導などを通して、町のアドバイスを多くいただいたり、相談に伺う回数が増えたりと関係性が深くなってきている。	電話で済ませるような事を排除し、窓口での直接的な相談や助言を受けられるように、関係性を培っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に、玄関の施錠やあらゆる面での拘束についても禁止している。勉強会も行っている。	身体拘束の具体性についても、管理者と職員で認識しあい、研修会も開催し、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を繰り返し行い、目に見える虐待の行為だけでなく、気がつかないうちに行ってしまうがちな虐待についても学習し、虐待が起きないように防止に努めている。(食事介助や言葉かけ、トイレでの排泄時など)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を行っているが、回数が少なく、深い理解にはつながっていない。又関係者との具体的な話し合いや支援は、行えていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、理解していただけるように十分に時間をとっている。いつでも疑問があれば質問していただける関係作りは行えている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議以外には特別機会を設けてはいないが、要望は、いつでも聞ける関係と体制作りはしている。(ご意見箱や家族ノートなど)	完全実施までに至っていないが、利用者ごとの家族ノートを作り、意見や要望の聴取に役立たせたいと考えている。	家族からの意見・要望の聞き取りについて、事業所が取り組んでいる「家族ノート」は有効と思われるため、具体的な活動に取り組むよう期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見を聞ける場を設けるようにしている。仮称「運営推進協議会」	職員の意見や要望は、その都度、会議や打ち合わせ等で聞きとっているが、「運営協議会」を設置し、意見や要望を話し合う場も設けて臨んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年、給料体系の見直し、休日の確保など行ってきたが、企業の成長と就業環境に若干の差異がみられるので、一つ一つ整備していく。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修をより受けられるように、予算立てをして計画的に行えるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年10月より町内にGHが開設したため、物品の貸し借りや研修会の準備等相互に関係作りをおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人からの情報をいただき、安心していただけることを初期の目標として取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いは、繰り返し行っている。要望がきちんと聞けるように信頼関係作りにも心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階では、話し合いを密にするため必要としている支援を提供できるように努力している。(他のサービスを考えてすれば、福祉用具等の利用)		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人にあった個別のサービスを行い、十分コミュニケーションをとり、共に暮らすパートナーとして日常接している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも関係づくりを行いながら、来所された時には、自由に過ごしていただき、時にはお手伝いもして頂いたりしながら、あたり前の関係を継続していただいています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域柄馴染みの場所に自由に行けるような手段が少なく、個別の対応は難しいが、手紙、電話などの取り組みや、来所される友人の歓迎や、次回のお誘いも積極的にしている。馴染みの関係維持は、増やしていきたい。	行きつけの医院や理髪店、カラオケなどの従前の関係を大切にしながら、友人の来所や散歩時での出会いなども積極的に支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの利用者がお互いを思いやったり、利用者同士が関わり合いをもてるように職員が気にかけて支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの利用者は亡くなられて関係が終了してりるが、家族との交流はできていることがある。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り、個人個人の意向に添えるように努めるよう職員全員が意識できている。	友人家族からの聞き取りや、日常生活の中から、本人の意向や潜在的な思いをくみ取り、大事に生かすように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴は、入居当初から情報をより多く集め、日常会話の中からも引き出し、馴染みの生活に近づけるようにしている。記録に残し、共有できるようにもしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	有する力を生かす必要性は十分に感じているが、把握する力を身に付けていく必要がある。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの情報、職員が聞き取った利用者さんの要望等を取り入れながら、できる限り具体的なプランにできるよう努力している。	ユニットによるケア会議を通して、個々のモニタリングを行い、次回の介護計画を作成している。利用者や家族の要望も出来る限り具体的に盛り込むよう努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録と計画の連動性が少なく、計画に沿った記録の記入をしていけるような取り組みに、必要性を感じている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々への対応ができているが、サービスの枠を超える際のリスクが高く、柔軟なサービスを心おきなくしたいが、萎縮しがちである。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源も乏しく、又利用しきれていないことから、協働ということまでにはなっていない。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望や、本人の様子などを加味して必要な時には、病院との関係作りや橋渡しの情報交換を行ったりしている。	本人や家族の希望を最優先して主治医を決めており、協力医等とも、いずれも漏れのないように情報を共有できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には看護職員は居ないが、病院内の看護師とは情報をこまめに伝え、アドバイスをこまめにもらえるようにしている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側との関係作りがとれてきているため、利用者が安心して生活できる場がG Hと理解していただいており、極力入院を見合わせ、指示をいただいたりなどしながら相談や、情報交換を行っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族が希望しているときは、病院、事業所へ報告し意向を伝えている。家族、病院、訪問看護と連携しながら終末期のケアを行ったことが一度ある。	終末期のケアや看取りについて、充分に必要性を感じており、実際看取りも経験し、事業所として方針やチーム作りに取り組んでいる。	終末期・看取りのケアについて、早期から十分な説明が必要と思われ、入所時に説明、書面での確認等が望ましいと思われる。今後、職員と論議し、終末期ケアの指針について、早急に具体化するよう期待する。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練を定期的には行っていない。ミーティング内で話し合うことは多々ある。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	どちらの方法の避難訓練も定期的に行っており、近隣の住民にも参加していただき行ったこともある。避難誘導も、全職員が体験できるように取り組んでいる。	災害訓練は日中の時間帯と、夜間についてそれぞれ実施。近隣の住民の協力も得ることができ、緊急時に備えている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重は、全員で意識している。声かけも丁寧に行えるよう職員で声をかけ合っている。排泄時等もプライバシーの確保を心がけている。	個人情報の機密保持や入浴、排せつ時の様子、また声かけや会話についても尊厳を大事にプライバシーの確保に努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無意識のうちに、自己決定の場面を打ち消してしまっていることが多くある。気をつけていきたい。自分で決めることの大切さは把握している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員、日常の業務の中での優先順位を考えられるように声をかけあっている。利用者中心の生活を目指している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時にはすぐに対応できないときもあるが、昔からの馴染んだおしゃれができたり希望を実現したり努力している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	すべてに対して十分な支援は行えていないが応える努力はしている。準備片付けは、日常的になっている。	食事は利用者・ケア職員とも同席・同食を原則とし、暖かな食事になるよう努めており、事前や事後のお手伝い等も自主的に行われている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	すべて記録に残し把握できるようにしている。食事が思うように摂れないときは、牛乳や、栄養飲料で代用したりしている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状況に応じて、毎食後の方、朝、夕の方といらっしゃるいますが、できることはしていただいている。義歯の方は預かり洗浄剤使用。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者の、トイレでの排泄を心がけている。排泄パターンもその日その日によって把握できるようにしており、全職員も把握できるようになっている。	利用者の特性に合わせた誘導を行っている。全職員がすべての利用者のパターンを把握しており、トイレでの排泄につながっている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足の注意、運動の促しのほか、その方にあった働きかけ(レーズン、プルーン、牛乳など)を試みている。毎朝手作りヨーグルトは定番となっている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、希望者は、毎日入浴している。主に午後が多くなっているが、希望があれば日中の支援も可能になっている。複数の入浴を希望される方、個浴を希望される方、どちらも自由。	浴槽が大小の二か所設けられており、個浴なり複数浴なり、選択は自由であり、個々に楽しんで入浴している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の不良の時は、居室で休んでいただいたり声をかけている。歩行の困難な方で意思の疎通が難しいかたは、状況を見て居室で休んでいただいているときもある。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量は把握できているが、副作用などすべての理解はできていない。すぐに確認できる資料はある。服薬は、食後渡していることが殆どだが封を破ったり、できることは見守るようにしている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	聞き取りを行いながら、必要な支援があるとわかっていながらも、こちらの都合でうまくできていないことが多々ある。気分転換を多くしていきたいと、職員全員が希望している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気軽に外出支援ができていないのが現状。外出を希望される場合には、一緒に行くようにしているが、こちらから積極的に促すことはない。家族地域の人々と協力しながらの外出もできていない。	夏場はホームの畑等で外気浴を味わうが、冬場は外出の機会は少なくなる。通院や買い物の機会を活用して支援している。	利用者全員の同時外出を指向せずに、ユニットごとやもっと少数の単位での外出を楽しむよう、また外気浴程度の散歩を気軽に行える支援を期待したい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は数名。お金を自由に使える機会が少ないが、地域のお祭り等では自分で自由に買い物ができるように心がけている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名の利用者、数名の職員ができていますが、積極的に取り組めるようにしていきたい。家族からは、感謝の気持ちを述べていただいている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間の配慮については、ところどころ改善が必要な部分が多く見受けられる。トイレが車いすでは狭いなど。観葉植物や熱帯魚で空間作りに工夫している。夏は畑の花を毎日飾っている。	一つのユニットの居間が大きな陽だまりとなっており、利用者全員が、日中集い合う空間となっている。建物というハード面で苦勞も生じているが、各々のアイデアや工夫で過ごしやすさを求めながら支援している。	建物からくるハンディを放置することなく、職員の英知を集め工夫、克服するような取り組みに期待したい。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一ユニットで過ごしていることが多く、ソファが少なく、自由さに欠けていることがある。もう一つのユニットがゆっくり過ごしたい方の空間となっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの生活を目指していきたいが、入居の時には、新しい物を購入される方が多くいらっしゃいます。写真を飾ったりして、自分らしさを楽しんでおられる方もいらっしゃいます。	馴染みの家財や見慣れた写真等、部屋に飾り落ち着いた雰囲気生活している。	入居時前の家庭訪問で、ホームでの生活に不可欠と思われる家財は、ホームに持参するようその場で家族の了承を得るなど、本人家族の自主性に任せるだけでなく、より積極的な姿勢で、ホームでの生活を支援していくよう期待したい。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを活かした工夫は少ない。トイレはわかりにくいので、トイレの表示をするようにしている。居室は表札をかけ、わかりやすくしている。		